

校長室だより No 17

学校評価はみんなで創る学校への一歩

2022年 12月14日 柏市立土小学校 校長 梅津健志

今週は希望制の個人面談週間として担任と保護者の対話の機会を設けています。また、12月上旬には学校評価アンケートへの回答をお願いしております。12月、学校は来年度に向けた計画づくりが始まっていきます。面談や学校評価もその取り組みの一つです。しかし評価というと、査定する意識をお持ちの方が多いと思います。本校での評価は、次の手を見出す取組と位置付けています。オンライン方式になり、昨年度は全保護者からの回答を集めることができませんでした。本年度は、全家庭からの回答をお願いします。現時点で88件ですので、あと230家庭程の皆様が未回答の状況です。この週末までにぜひご回答いただきたいと思います。今年は、未回答のご家庭には、個別にご連絡を差し上げる予定です。ご協力のほどよろしく願いいたします。

学校評価は記名式でお願いをしています。それは教育活動の評価は、商品やサービスの市場調査とは異なるからです。学校は、学校教職員と保護者と地域住民とさらに関係者が協力しあい、「社会に出てから生きる力を身に着ける」ことを最上位目標として、お互いに力を合わせて教育活動を行っていく所です。子供を取り巻く大人たちは、子供のためを思えばこそ、言いにくいことも伝え合い、合意・納得・協力して教育活動にあたっていく集団に成長していかなければなりません。本校の教育活動に対するご意見や改善提案については、学校教育活動をよりよくしていく視点として受け入れ、様々に検討して参ります。今、教育は大きな転換点にあります。教師や大人が教えること以上に、子供たち自身が自ら学ぶように変化をしています。保護者の皆様が子供のころとも変わってきています。そのような変化を共有できる場面として教育三集会などを開催しながら、よりよい土小学校の教育活動を創っていくためにも、学校評価へのご協力をお願いいたします。

転換点にある教育の任にある教員は、研修で学ぶことがとても大切です。そこで、今月から2月にかけて、私も人脈をフル活動させ土小の研修を高め、教師力アップを図っていきます。昨日は、文部科学省の教科調査官（学習指導要領を作り、全国の教育委員会に指導をしている人）で道徳の浅見調査官に1年生で授業をしていただきました。1月には、お茶の水女子大学附属小学校で長年担任をしていた友人にお願いし、6年生で国語の授業をしてもらいます。さらに2月には授業の達人として全国的に有名な菊池省三先生に半日滞在してもらい、複数学年で授業をしていただきます。土小の子供たちにとっては素敵な時間となり、土小の教師にとっても他校では経験できない学びの場としていきます。全ての学級で授業をしていただくことは叶いませんが、先生方の力となって子供たちに還元されていくよう努めていきますので、ご理解とご協力をお願いいたします。